

令和 8 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	41	学校名	県立神栖高等学校					課程	全日制	学校長名	野友 宏則					
教頭名	小田原 知子									事務(室)長名	江藤 真紀子					
教職員数	教諭	24	養護教諭	1	常勤講師	9	非常勤講師	7	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	52
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	クラス数			
	普通科		64	55	60	64	50	49			174	168	12			

2 目指す学校像

<p>「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」</p> <ol style="list-style-type: none"> 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 生徒一人一人の人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

<p>育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<p>● 「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」</p> <ol style="list-style-type: none"> 目標実現に向け、協働的に粘り強く挑戦できる。 地域や社会における「解のない問い」に対峙できる。 様々な「自立」に向け、主体的、意欲的に行動できる。 心身ともに健康で、情操豊かで他人を思いやることができる。 地元を愛し、地域を知り、個人や社会に「貢献」できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>● 「学ぶ喜びを感じながら、主体的・協働的・探究的・社会的に学びを深める」</p> <ol style="list-style-type: none"> 個々の目標や進路希望に応じた教育内容を提供する。 進路希望の実現に向けたキャリア教育を実践する。 新技術を活用した様々な教育活動を実践し、高度情報化社会に対応できる能力を開発する。 個々の学習到達度や状態等に応じた個別最適な学びをサポートする。 多様な評価を実施し、自己効力感を高める。

別紙様式 1 (高)

<p>入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>●資質・能力並びに3年間計画する教育内容を踏まえ、神栖高校生として前向きに取り組める生徒を求める。</p> <p>① 中学校で修得すべき基礎学力の上に、各自の心身の発達及び進路に応じて、一層の学力を身に付けようとする生徒</p> <p>② 主体的に学習する態度や習慣を身につけ、進路実現を目指し、日々努力する生徒</p> <p>③ 学校内外の様々な活動(部活動、芸術活動、ボランティア活動)等に積極的に取り組み、実践し、表現しようとする生徒</p> <p>④ 人への思いやりを大切にするという精神を尊重しようとする生徒</p> <p>⑤ 本校で身に付けた資質・能力を発揮して、世界や地域の課題を自分の課題として、解決に向けて探究するとともに、仲間と一緒に活動しようとする生徒</p>
---	--

4 現状分析と課題(数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	<p>生徒による学校評価アンケート結果より、約88%が「授業がよく理解できる」「ほぼ理解できる」と回答している。以前より実践している少人数授業やICT機器活用の推進など、一定の効果は上がっており、互見授業や研修を通して、さらなる教員の授業力の向上に努める必要がある。</p> <p>また、生徒状況調査の結果より、「今の自分に満足している」の質問に対し「そう思う」「ほぼそう思う」と回答した生徒は約86%であり、自己肯定感や自己有用感も向上してきている。</p>	<p>主体的・対話的で深い学びを実現するため、教員相互の授業参観等を積極的に行い、さらなる授業力向上を図り授業改善に努める。</p> <p>以前から実践してきた少人数指導等のきめ細かな指導を通して学習意欲を喚起し、さらなる授業改善や学習内容の定着を促す取り組み、家庭学習の習慣化を図るための方策が求められる。</p> <p>また、Google Workspace for Education等の活用を進め、ICTの的確な運用・管理するとともに、生徒の意欲関心を高める授業展開を図る。</p>
進路指導	<p>進学については、自己の確固たる目標に向けて、最後まで諦めることなく取り組んだ結果、15名の生徒が四年制大学に合格した。自己の強みや特性を生かした入試形態を選択するなど昨今の幅広い入試方法に対応した進学支援が希望進路実現へとつながった。就職については、計画的・継続的な指導を行った結果、就職希望者全員が内定となった。夏季休業中に就職対策課外を実施し、一般常識・面接対策を十分に行ったことが高い内定率につながった。学習面では定期考査や外部試験等の際の事前事後指導が定着しつつあり、振り返り活動を通して好成績を収める生徒が増加した。</p>	<p>各学年で段階的に進路ガイダンス等を設定し、啓発的・体験的な活動を一層充実させ、勤労観・職業観の育成を図るとともに、事前指導ー進路行事ー事後指導のサイクルを確立させる必要がある。</p> <p>基礎学力の定着だけでなく応用問題にも対応できるよう、連携している動画の配信等を組み込み、自学自習のスタイル確立につなげたい。</p> <p>早期から資格取得や検定試験の受検を奨励し、就職・進学への意識を向上させたい。特に成績上位層へ特化した対応策が必要である。</p> <p>生徒の希望学部に応じて、専門的な視点で受験対策が行えるよう、組織的に支援体制を整える必要がある。</p>
特別活動	<p>部活動は部員数が少ない中でも、大会や展覧会で入賞を果たすなど実績をあげている部活動もある。昨年度の県の部活動運営方針の改訂に沿って適正な部活動を実施していきたい。今年度は水曜日をすべての部活動の休養日として実施する。隔年開催の文化祭や体育祭は、一つのことをやり遂げる達成感や、協力して物事に取り組む連帯感を育むことができる。</p> <p>各種委員会や生徒会活動は、校内外で積極的に行われており、生徒</p>	<p>部活動の加入率・定着率の向上が重要課題ではあるが、現在18ある部活動の増減も考えていく必要がある。部員数が0となり、廃部検討対象の部や、eスポーツのように、需要を把握して新たに活動を検討するものもある。神栖市との包括連携協定をもとに地域との連携を図り、校外での活動をさらに充実させたい。これからも各種委員会を含めた特別活動全般を通して母校愛や協働する喜びを体得させ、学校を皆で活性化させる気運を一層高めたい。本校の「部活動のあり方に関する活動方針」</p>

別紙様式 1 (高)

	<p>の自己有用感の向上に大きく貢献している。各種委員会は再編し、できる範囲で地域との連携を視野に入れた活動の場を広げていきたい。</p>	<p>に則った適正な部活動運営を推進する。 中学校から引き継がれたキャリア・パスポートを継続し、探究活動の充実を図っていきたい。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>「自己肯定感」や「自己有用感」の向上を意識した授業や学校行事に取り組んでいる。相手や周囲に合わせた行動や自分を客観的に見る力を少しずつ育んでいきたい。欠席や遅刻が多い生徒や、服装面で乱れ傾向のある生徒も家庭の協力のもと組織的な支援を継続している。定期的な面談や生活アンケートを年間計画に組み込み、学校全体でいじめや事故、問題行動の未然防止に努めている。家庭との連絡を密にとり、スクールカウンセラーや地域の機関との連携をしながら生徒の成長を促していきたい。</p>	<p>基本的な生活習慣や規範意識の向上が課題である。また、自転車通学での事故防止も大きな課題である。SCによる「学級開きエンカウンター」の実践により、良好な人間関係の構築を目指し、定期的な面談や生徒アンケートで問題行動の早期発見、未然防止に努めたい。あいさつ運動や交通安全教室を通じて、交通ルールの遵守やヘルメット着用率の向上を促進したい。教師の積極的な研修や情報交換を行い地域との連携を高め、あらゆる教育活動を生徒の成長する機会として実践していきたい。</p>
<p>働き方改革</p>	<p>若手教員の比率が高く、授業や部活動に伴う業務負担が課題となっているが、管理職との面談等により時間外勤務は前年度比で改善しつつある（令和6年度月平均45時間超過者割合5.2%、令和7年度月平均45時間超過者割合4.9%）。定時退勤の徹底やICTを活用した校務の効率化・教材の共有化を推進しており、より働きやすい職場環境の構築に向けた基盤づくりが進んでいる。</p>	<p>「チーム神栖」として組織力を高めるため、教材共有や業務見直し、ICT化を推進し、徹底した業務効率化とスマートな職場環境の構築を図る。これらを通じて職員の自己管理能力を高め、計画的な年休取得と心身の健康維持を促進する。あわせて報連相を徹底し、問題を一人で抱え込ませない強固な支援体制を構築する。</p>

5 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 自制心、向上心、共感性を育てることを通して基本的な生活習慣を確立し、教育環境を整備し、教育活動全体を通して豊かな教育を推進する。 2 学習意欲を喚起し、主体的に学習する態度や習慣を育成するため、生徒の実態に即した教育課程を編成するとともに教職員の研修を充実させ、指導方法の工夫改善を図る。 3 生徒の自主性、自立性の確立と人格の形成及び連帯感の涵養を目指し、HR・生徒会・部活動の活性化を図り学校行事の充実に努める。 4 地域・家庭・中学校との連携を強化し、それぞれの役割を明確にして協力体制を構築し、次代を担う地域の人材を共に育成していくため「開かれた学校づくり」を推進する。 5 「神栖高校いじめ防止基本方針」に則り、いじめの防止・早期発見・早期解消に取り組む。また、いじめのない誰もが良好な人間関係のもと安心して学べる学級・学校づくりに努める。 6 働き方改革を推進し、校務の効率化と質の向上に向け、効率的な教育活動を具現化する。

別紙様式 1 (高)

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
(1) 基礎学力の向上と授業の質の向上	① 家庭学習の定着及び進学課外の充実 ② 学習・進路に対する明確な目標設定と上位級への挑戦を含む資格取得の奨励 ③ 授業力向上と進学指導体制の構築
(2) 基本的な生活習慣の定着と安全指導の充実	④ 時間遵守の意識付けと規則正しい生活習慣の確立 ⑤ 制服の正しい着こなしの徹底 ⑥ SNS等インターネットの安全な活用法の習得といじめの未然防止及び早期発見・早期解消 ⑦ 交通事故の未然防止(自転車の安全指導・交通マナー指導)
(3) 自ら課題を発見する力の育成 (キャリアパスポートとの連携)	⑧ 探究活動の充実 ⑨ ICT機器を活用した授業実践と積極的な研修 ⑩ キャリアパスポートの定期的かつ積極的な利用 ⑪ チャレンジプロジェクト計画案の確実な実施
(4) 授業改善の促進	⑫ 全ての授業において、授業満足度(KPI)が3.6以上 ⑬ 授業改善に向けた互見授業を年2回以上実施
(5) 広報活動の更なる充実	⑭ 学校HPの活用と充実 ⑮ 携帯連絡網(マ・メール)の効果的な活用 ⑯ 校内掲示の充実及び電子機器の積極的活用
(6) 外部機関との連携	⑰ 神栖市との包括連携協定の充実
(7) 働き方改革の推進	⑱ 定時退勤日、完全退勤時間の徹底 ⑲ 資料、情報のネットワーク上でのスマートな蓄積、管理及びペーパーレス化の推進